

# 司法公告系統與當事人隱私權 —訪問臺灣大學法律學院黃詩淳助理教授



**黃詩淳**

現職：臺灣大學法律學院專任助理教授

學歷：日本北海道大學法學博士

教授科目：民法、身分法、日文法學名著選讀

**編輯部：**

現行司法電子公告系統，能否兼顧對隱私權的保障？

**黃教授：**

監護、輔助宣告係保護判斷力不完全之人的措施，由法院選任監護人代理本人為法律行為，或由法院選任輔助人，對於本人之重大財產行為賦與同意權，以防止本人思慮不周之情形下，做出不符自己利益之行為。由於受監護宣告人無法獨立為法律行為（受輔助宣告人則無法獨立為某些法律行為），為保護交易安全，我國係以監護登記（於戶籍資料）及公告為公示方式，但卻可能因此不當侵害受監護、輔助宣告人之隱私，甚至發生其他危險。以下分就監護登記與公告詳細檢討之。

**一、監護登記**

民法第1112條之2規定：「法院為監護之宣告、撤銷監護之宣告、選定監護人、許可監護人辭任及

另行選定或改定監護人時，應依職權囑託該管戶政機關登記。」根據立法理由，監護登記之目的係為使監護登記之資料完整並「保護交易安全」。

依上述規定，法院為監護後，應依職權囑託戶政機關登記，輔助宣告亦同（第1113條之1第二項將第1112條之2準用於輔助宣告）。此外，戶籍法第11條、第12條規定了監護、輔助登記之義務。是故，民法所謂的監護登記，係指戶籍法上之登記，此一資料將過錄於戶口名簿。在辦理例如身心障礙年金申請等手續時，均要求申請人須附戶口名簿影本，理由在此。

得閱覽戶籍資料者，有範圍限制。「申請戶籍謄本及閱覽戶籍登記資料處理原則」第一點規定：戶籍謄本及閱覽戶籍登記資料之申請人：「（一）當事人。（二）利害關係人。（三）受委託人」。第二點則再更進一步規範何為「利害關係人」，包括：（一）契約未履行或債務未清償。（二）同為公司行號之

股東或合夥人，且為執行職務所必要。(三)訴訟繫屬中之兩造當事人。(四)當事人之配偶、直系血親、直系姻親或旁系三親等內之血親。(五)戶長與戶內人口。(六)其他確有法律上權利義務得喪變更之關係。因此，於戶籍資料上所為之監護登記，並非不特定第三人所能隨意得知，尚不至過度侵害本人隱私。

不過，同樣具備戶籍制度的日本，卻認為將受監護宣告之事實記載於戶籍不妥當，於2000年廢除禁治產、引進成年後見制度之同時，新設了「後見登記制度」取代以往的戶籍登記(詳如後述)。而長期以來保有戶籍制度的韓國，受禁治產宣告之事實原本亦登記於戶籍資料上，但近年來有幾次重大修法，首先在2008年廢除了戶籍制度，改採「家族關係登錄制度」，其後，2013年7月1日起施行新成年後見，並同時創設「後見登記制度」，因此，後見之公示方法也已與其他身分關係事項分離。

## 二、公告

為保護交易安全，我國不但將被監護、輔助宣告之事實記載於戶籍，甚至利用網際網路將之全面公開。舊民事訴訟法第605條(2013年5月8日修正刪除)及家事事件法第169條規定：「(第1項)監護宣告之裁定，於裁定送達或當庭告知法院選定之監護人時發生效力。(第2項)前項裁定生效後，法院應以相當之方法，將該裁定要旨公告之。」

### 司法院所設的監護、輔助宣告查詢系統

<http://jirs.judicial.gov.tw/GNNWS/NNWSS001.asp?classFlag=z&Search=y>，即係條文所謂的相當之公告方法。只要在「查詢條件」欄位輸入當事人姓名，便可查詢該人是否受監護、輔助宣告。又例如，隨意指定2013年10月1日，便可查詢各級法院於該日公告之裁定(如下圖)：

The screenshot shows a search interface for court judgments. The search criteria include: Search Type: '監護、輔助宣告' (Guardianship, Subsidized Guardianship), Search Conditions: '2013-10-01' (Date), and Search Content: '林恩德'. The results table lists several judgments, including one from the Taiwan Provincial Court dated 102.10.01 regarding Lin En-de.

若再進一步點選例如第二筆「公告林恩德為受監護宣告之人」的連結，將進入以下畫面：

This screenshot shows the detailed view of a specific judgment. It includes the following information: Date: 102.10.01, Issuing Court: Taiwan Provincial Court, Subject: Announcement of Lin En-de as a person under guardianship, and Summary: Judgment 325 of 102 regarding Lin En-de's guardianship. It also notes that the case involved Lin En-de (身分證統一編號: N12\*\*\*\*954號) as the person under guardianship.

又例如，點選第八筆「公告本院102年度監宣字第130號輔助宣告等事件裁定」的連結，會顯示以下畫面：

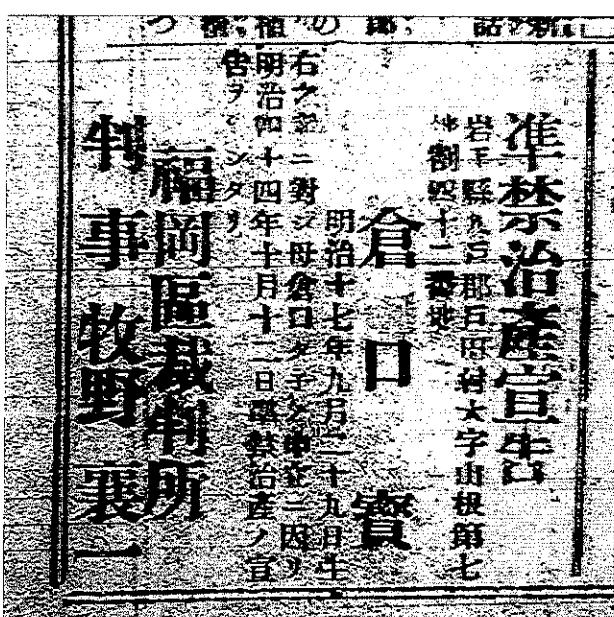
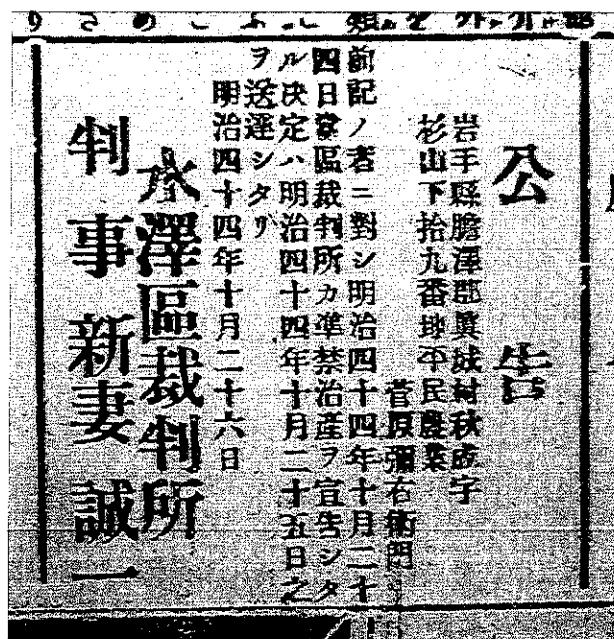
This screenshot shows the detailed view of another judgment. It includes the following information: Date: 102.10.01, Issuing Court: Taiwan Provincial Court, Subject: Announcement of the 102nd year, case number 130 regarding auxiliary declarations, and Summary: Judgment 130 of 102 regarding auxiliary declarations. It also notes that the case involved Lin En-de (身分證統一編號: T12\*\*\*\*648) as the person under guardianship.

上述連結內容均將被監護、輔助宣告人之姓名及部分身分證字號公開，有些公告則會進一步顯示監護人或輔助人之姓名。

公告的理由，當然也是為了保護交易安全(參

閱鄧學仁，台灣成年監護之現況與課題，全國律師，17卷5期，2003年5月，頁16）。然而，此一公告系統完全公開受監護、輔助宣告人之姓名，不特定第三人皆可查詢，比起閱覽權人受限的戶籍上的監護登記，顯然更侵害當事人之隱私，且違背了比例原則。並且，完全公開的作法，也會對本人帶來意想不到的危險。

日本在2000年修法前，與我國相同，禁治產、準禁治產之宣告除登記於戶籍外，亦有公告措施，刊登於政府出版品或報紙上（圖示如下）：



由於日本過去之公告包含了當事人之姓名、住所、出生年月日等資訊，當時曾發生不肖業者藉此得知何人係欠缺判斷能力之人，刻意接近並推銷各種昂貴的商品與服務。換言之，公告不但沒有保護交易安全，還使得本人陷入被詐騙的危險中。

我國目前之公告系統，揭露了本人之姓名、部分身分證字號，雖無詳細住址，但從發布單位可以進一步特定本人之住居所地（監護宣告等事件專屬應受監護宣告之人的住所地或居所地之法院管轄，家事事件法第164條第1項），如此可能發生日本曾出現過的引狼入室、導致本人受詐騙之問題。尤其受輔助宣告人，其日常生活所必需之行為，可獨自為之，倘若不肖人士藉公告系統得知其姓名及所在地，必定成為待宰肥羊，處境堪慮。即使日後受輔助宣告人、輔助人或其他家屬發現此一不當之法律行為，欲主張撤銷或不同意，恐怕詐騙者也早已逃之夭夭，本人所受損害難以回復。

**編輯部：其他國家有無更為周全的設計？**

**黃教授：**

為了保護交易安全，其他國家當然也有管理並公示受監護宣告之事實的需求，但公示並不等於無限制的「公告」。以下舉日本為例。

日本在2000年3月31日以前，如上所述，情況跟我國類似，禁治產、準禁治產宣告會公告於政府官報上，並登記於戶籍。2000年4月1日起施行新成年監護制度，廢除公告及戶籍登記，引進另一套「成年後見登記制度」，登記檔案中，記載了例如後見的類別、審判之裁判所、事件號碼、被後見人姓名、出生年月日、住所、後見人、後見監督人、應得保佐人或補助人同意之行為、保佐人或補助人代理權之範圍、任意後見契約相關事項等（後見登記法第4條、第5條）。此登記目前係由東京法務局辦理。

不特定第三人無法任意查詢上述登記檔案，僅限本人、配偶、四親等內之親屬得請求交付「登記事項證明」（後見登記法第10條）。而一般人在從事交

易或為了取得特定國家認證資格時，若要證明自己未受後見等宣告，須向東京法務局申請「未受登記之證明」（如下圖）：

「登記されていないことの証明申請書」  
(後見登記等ファイル用)

02 請求できるのは、本人、本人の配偶者または直親等内の親族です。  
なお、代理の方が申留する場合は、該当する方からの委託状が必要です。

請求される方 (請求者)	住所 (フリガナ)		氏名 (フリガナ)	送致先(電話番号) (フリガナ)		年月日 平成 年月日	印入紙を貼るところ																																																	
代理人 (代理人)		住所 (フリガナ)		送致先(電話番号) (フリガナ)			取入 印紙																																																	
送達先 下記の郵便宛先		住所 (フリガナ)		送致先(電話番号) (フリガナ)																																																				
添付書類 (請求書類)		※印紙は申請者ごとに必要な額分を貼ってください。 ※印紙は申請者ごとに必要な額分を貼ってください。																																																						
登記事項 (登記の内容)		<input type="checkbox"/> 成年被後見人、被保佐人とする記載がない。 <input type="checkbox"/> 成年被後見人、被保佐人、被輔助人とする記載がない。 <input type="checkbox"/> 成年被後見人、被保佐人、被輔助人、任意後見契約の本人とする記載がない。 <input type="checkbox"/> 法人の代表者の資格を有する旨の記載がない。 <input type="checkbox"/> その他の( )とする記載がない。 <small>(上記以外の記載があるときは記入)</small>																																																						
請求通路		書類を受ける方の 住所 (フリガナ)		□ 通じてない □ 通じてない																																																				
○証明を受ける方 この部分を複数して証明書を作成されたら、手書きをはっきりと、住所または本籍は番号、地番まで記入してください。																																																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">①氏名</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td>②生年月日</td> <td>西暦 大正 昭和 干支</td> <td>年</td> <td>月</td> <td>日</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td colspan="5">平成 年月日</td> <td colspan="3">西暦 干支</td> </tr> <tr> <td colspan="8">③住所</td> </tr> <tr> <td colspan="8">④本籍</td> </tr> <tr> <td colspan="8">□ 里籍</td> </tr> </table>								①氏名								②生年月日	西暦 大正 昭和 干支	年	月	日					平成 年月日					西暦 干支			③住所								④本籍								□ 里籍							
①氏名																																																								
②生年月日	西暦 大正 昭和 干支	年	月	日																																																				
平成 年月日					西暦 干支																																																			
③住所																																																								
④本籍																																																								
□ 里籍																																																								
<small>提出先から行に印字がない場合は、住所または本籍(外団人の場合は名に記し、正しい伝音を)のいずれかを記入してください。</small> <small>請求される方(代理人の場合は代理人)の本人確認書類は必ず提出または添付してください(背面4歩印)。</small> <small>印入紙について 1. 印入紙は必ず横のフリガナで、必ず印入紙を貼るところに貼り付けてください。 2. 印入紙を貼るところに貼り付けてください。 3. 本件は日本語で記入して下さい。英語など他の言語で記入しても構いません。 4. 本件は日本語で記入して下さい。英語など他の言語で記入しても構いません。 5. 本件は日本語で記入して下さい。英語など他の言語で記入しても構いません。 6. 本件は日本語で記入して下さい。英語など他の言語で記入しても構いません。</small> <small>印入紙を貼るところ</small> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">印入紙を貼るところ</td> <td colspan="7">印入紙を貼るところ</td> </tr> <tr> <td colspan="8">□ 本人登記用印 □ 代理人登記用印 □ 本人登記用印 □ 代理人登記用印 □ 本人登記用印 □ 代理人登記用印 □ 本人登記用印 □ 代理人登記用印</td> </tr> </table>								印入紙を貼るところ	印入紙を貼るところ							□ 本人登記用印 □ 代理人登記用印 □ 本人登記用印 □ 代理人登記用印 □ 本人登記用印 □ 代理人登記用印 □ 本人登記用印 □ 代理人登記用印																																								
印入紙を貼るところ	印入紙を貼るところ																																																							
□ 本人登記用印 □ 代理人登記用印 □ 本人登記用印 □ 代理人登記用印 □ 本人登記用印 □ 代理人登記用印 □ 本人登記用印 □ 代理人登記用印																																																								

換言之，日本的作法係由交易相對人要求本人提出「未受（後見）登記之證明」，或者要求自稱為後見人之人提出「登記事項證明」，如此可達到保護交易安全之效（證明面前此人確實有完全行為能力，或者確實為有代理權之人），而不是無限制地公開後見登記資料、任由交易相對人查詢。因受監護等宣告之事實並不會被公開，較能保護本人之隱私與安全。

## 編輯部：現行電子公告系統應如何改善？

黃教授：

聯合國身心障礙者權利公約第22條強調保護身心障礙者的個人、健康和康復資料的隱私。近年日、韓兩國在改革成年監護制度時，均同時引進了新的登記方式，取代過去的戶籍登記加上公告，並限制一定資格者始能取得成年監護之資訊，在交易安全和本人保護間尋求平衡之道，也符合國際潮流。

相反地，我國雖較韓國更早於2009年11月23日便施行了新成年監護制度，但改革幅度比起日、韓兩國均侷限許多，不但繼續維持受監護宣告人「無行為能力」之規定，類別也僅有監護與輔助的二種僵硬類型（以上皆與身心障礙者公約第12條之精神相抵觸），並未同時創立較尊重本人自我決定權之意定監護制度，也沒有檢討既有的公示方法，亦即戶籍登記和公告的問題。

如上所述，筆者認為戶籍登記較無侵害隱私之嫌，但公告系統（司法院所設的監護、輔助宣告查詢系統）卻有嚴重缺失。欲保護交易安全，並無必要公開受監護、輔助宣告人之姓名和部分身分證字號，此舉反而陷受監護、輔助宣告人於危險。從而，應儘早刪除家事事件法第169條第2項「公告」之條文，並廢除此查詢系統。交易安全之保護，可由監護人代理本人申請戶籍謄本，提出於交易相對人，證明該監護人確實有代理權；並可考慮如日本之作法，由登記機關（目前為戶政）發行「未受監護登記之證明」，由本人提供交易相對人，證明本人確實有行為能力即可，而非讓交易相對人任意上網搜尋本人是否受監護或輔助宣告。

## 「東アジア成年後見法会議」傍聴記

ワシントン D.C. で開催された第 3 回成年後見法世界会議の前日である 2014 年 5 月 27 日に、日本成年後見法学会は、東アジア成年後見法会議を主催した。新井誠理事長はモダレーターを担当し、日本・韓国・香港・台湾（報告順）からはそれぞれ基調報告者 1 名とパネリスト 1 名を指定し、報告・議論を交わした。

### ◇基調報告

大貫正男副理事長は、日本の市民後見人が発足する背景、すなわち家族後見人の割合の低下と担い手の不足を紹介したうえで、市民後見人の概況、事務内容および地方行政・裁判所との連携構造について説明した。

仁荷大学教授の朴仁煥氏は、韓国の新成年後見制度の施行と挑戦について報告した。法定後見制度の 3 つの類型のうち、「特定後見」が国連の障害者権利条約にもっとも合致するものであるが、新法の施行以来、「成年後見」を利用する数が圧倒的に多い。「特定後見」の利用を促進するため、発達障害者の後見のみに提供する国の補助を、認知症に懸った高齢者にも拡大して適用すべきであると主張した。

香港大学教授のルシナ・ホー氏は、「障害者の財産管理——香港の課題」をテーマに、香港における持続的代理権 (Enduring Power of Attorney) の利用者数がわずか 66 件という事実を指摘した。その理由は、厳格な成立要件、代理権の範囲が身上事項に及ばないこと、後見人の権限に関する規定が不明確であること、があげられた。制度の利用を拡大・促進することは今後の重要な課題である。

国立台北大学教授の戴瑀如氏が、台湾の成年後見制度に関する民法と家事事件法の法改正を紹介した。残された課題としては、「監護」類型の下で、被監護人は全く行為能力がなく、現有能力が尊重されていない点をあげられた。それを改善す

る方法として、後見制度を行能力制度と分離し、さらに、任意後見制度を創設すべきであると提案した。

### ◇パネル・ディスカッション

4 人のパネリストは、上述した基調報告をもとに、自国の成年後見制度の詳細についてさらに補足した。

池田恵利子副理事長は、日本の成年後見人等の不正行為を取り上げ、その再発を防止するための対策を紹介した。

韓国漢陽大学教授の諸哲雄氏は、「特定後見」と「任意後見」の利用を促進するため、本人の人権擁護に関する意識を高める必要があると強調した。

香港大学教授のレベッカ・リー氏は、中国大陸の成年後見に関する 2 つの新しい立法動向、すなわち 2013 年 5 月に施行された精神衛生法と高齢者権利保障法を紹介し、これによって任意後見契約が認められたが、いまだ現代化した成年後見制度が整備されていないと分析した。

筆者は、後見事務の遂行および裁判所の判断が、場合によって被後見人の家族の意向に左右されることを指摘し、家族の役割の再考を促した。

その後、ディスカッションに入り、新井誠理事長は、パネリストとともに、東アジアにおける任意後見制度の普及の可能性、後見制度と家族構成員との密接な関わり等について議論した。最後は、東アジア以外の地域からのコメントーターであるヨヘン・エクスラーケーニッヒ氏、ダニエル・コー氏、デイビット・イングリッシュ氏、フォルカー・リップ氏がそれぞれ簡単な感想を述べ、充実した会議となった。

(国立台湾大学教授 黄 詩淳)